



北方資料展示「竹鶴政孝と北海道～日本にウイスキーを伝えた男の愛と情熱の物語～」

NHK連続テレビ小説「マッサン」の放映にさきがけ、関連資料展を実施しました。図書、雑誌など約40冊のほか、ニッカウイスキー第1号瓶（協力：アサヒビール株式会社）など貴重な展示物の数々をご覧くださいました。（関連記事：p. 9～p. 10）

目 次

事業報告

平成26年度全道図書館中堅職員研修会	1
平成26年度全道図書館専門研修	2
市町村図書館職員レファレンス体験研修	4
利用者向け講座	5
展示を振り返って	7
北海道の図書館から「マッサン」を発信！！	9
平成26年度北海道立図書館協議会	11

道内図書館紹介

「地域の情報編集センターとしての新たな図書館をつくる」	12
「アーニス分館はじめました。登別市立図書館」	14
平成27年度事業計画	16
平成26年度全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰	17
掲示板	18

平成26年度全道図書館中堅職員研修会

この研修会は、道内各公立図書館、公民館図書室等に勤務する中堅職員に対し、図書館運営・企画能力の向上、変化する利用者ニーズに対応できるスキルの習得を図ることを目的に開催しています。

今回は、「子どもの読書活動」と「連携・協力」をキーワードに、図書館サービスを発展させていくための学校・ボランティア・他の行政機関等との連携について、道内図書館で活躍する職員による講義や、グループワークを通して学ぶ場としました。

■期 日：7月10日（木）～11日（金）

■会 場：北海道立図書館

■参加人数：15名

■日 程：

【1日目】

事例紹介「学校・ボランティアとの連携

～和寒町図書館の取組」

和寒町教育委員会次長補佐（図書館係長）綾野千佳氏

情報交換の様子

演習「自館の特色を説明する」

北海道立図書館総務企画部企画支援課長 吉原和夏子

講義「ネットワークを活用したレファレンスサービス」

北海道立図書館利用サービス部利用サービス課長 宮本浩

【2日目】

講義「地域の資料を活かして残す ～地域資料の収集と活用～」

北海道立図書館利用サービス部北方資料課長 加藤ひろみ、北方資料課主査 小川靖子

事例紹介「学校への支援 ～派遣司書の仕事から学ぶ～」

栗山町図書館司書リーダー 矢野朱美氏

情報交換 「『連携』を考えよう ～図書館、学校図書館等との連携」

北海道立図書館総務企画部企画支援課長 吉原和夏子

■事後アンケート、事後課題レポートから

- ・ 今回、研修の大きなテーマが「学校支援・連携」ということで、現状自館ではほとんど手をつけられていないので、とても参考になる話が聞けてよかった。また、他の館の方と情報を交換することで、今まで気がつかなかった問題や対策が分かってとてもよかった。
- ・ 参加して学んだことは、「PRの大切さ」と「連携・コミュニケーションの大切さ」です。
- ・ （学校との）連携を行ううえで、先生方との意思疎通は基本となるので、じっくりコミュニケーションを取って理解を得ていきたい。
- ・ 人とのネットワークや資料のネットワークを知ることができて大変勉強になりました。
- ・ いろいろな地域資料を収集し、未来へ情報を残していきたい。（企画支援課）



平成26年度全道図書館専門研修

【レファレンス】

○期日：平成26年11月27日（木） ○会場：市立留萌図書館 ○参加人数：16名

○内容：

講義「子どものなぜに応えるレファレンス」北海道立図書館利用サービス部利用サービス課企画主幹 一戸 泰

講義「今の子どもとレファレンスについて」 同 主査 原田 英明

グループ討議「子どものなぜに応える工夫について」 進行：一戸 泰

子どもたちが自ら疑問を調べて解決する力を育てるため、図書館では、子どもの「なぜ？」にどのように応え、支援していくかを考えました。

講義では、児童サービスや調べ学習の場面でのレファレンスサービスについて、PISAテストのデータ等を踏まえ、接し方の実際や道内の事例を紹介しました。

グループ討議では、子どもの学びの場としての図書館・図書室の環境改善やPRなどについて、活発に意見交換が行われました。参加者からは、「子どもへの声のかけ方など、認識を新たにしたい」「地方開催で、参加しやすかった」等の感想が寄せられました。



【子ども読書】

○期日：平成26年12月11日（木） ○会場：江差町文化会館小ホール ○参加人数：39名

○内容：

講演「ブックスタート 赤ちゃん絵本をひらいたら」

NPO法人ブックスタート 桐生 通子氏

報告「檜山・渡島ボランティアネットワークの活動について」

檜山・渡島ボランティアネットワーク代表 小川 ひとみ

ワークショップ（情報交換）「子どもたちに、本の楽しさを伝えるために」

北海道立図書館総務企画部企画支援課企画主幹（子ども読書）

桑原 裕子

まとめ 進行 檜山教育局教育支援課社会教育指導班



講演では、ブックスタート発案のきっかけや今までのあゆみ、その意義などのお話と併せて、DVDによるブックスタート実施の様子などが紹介されました。初めての絵本と向き合う赤ちゃんの表情や保護者の反応などが身近に感じられました。

報告では、今年度、渡島・檜山ボランティアネットワークが行なった事業の報告と、読み聞かせボランティア「マザーズぽけっと」によるペープサートの実演が行なわれました。

ワークショップでは、課題解決のヒントを話し合う中で、ブックスタートへの関心と意識が深まったようでした。最後に、まとめとして、参加者各々が「明日からできること」について考え、グループ内で発表を行ないました。

【関係法規】

○期日：平成27年1月22日（木） ○会場：北海道立図書館 ○参加人数：24名

○内容：

講義「図書館法とその周辺」

北海道立図書館利用サービス部長 金山 聖子

解説「図書館サービスと著作権法」

同 総務企画部企画支援課主任 西岡 祐子

主事 森定 理恵

情報交換「円滑なサービスのために」

同 総務企画部企画支援課長 吉原 和夏子



はじめの講義では、公共図書館の理念や公共図書館前史について、詳しく説明しました。アンケートでは、「図書館の歴史を学ぶことができて良かった」「今後の図書館のあり方を考えるきっかけとなった」などの意見がありました。

また、図書館サービスと密接に関わる著作権法については、スライドと配付資料を用い、基本的事項や事例について解説をしました。

次に、テーマを設け、基本的なサービスの姿勢や利用者への説明の仕方について、グループで情報交換をしました。

全体を通しての感想に「今までにも勉強してきたテーマであったが、繰り返すことが重要だと改めて確認した」という意見がありました。法規の改正や新しい情報に常に敏感になること、また職員間で情報を共有し理解を深めることで、より良い利用者サービスにつながるということが強く意識された研修となりました。

【資料保存】

○期日：平成27年2月12日（木） ○会場：北海道立図書館

○参加人数：31名（うち、国立国会図書館説明会のみ参加6名）

○内容：

国立国会図書館説明会

「国立国会図書館デジタル資料活用法

ー図書館向けデジタル化資料送信サービスについてー」

国立国会図書館関西館文献提供課課長補佐 山崎 美和 氏

講義「製本に関する基礎知識と資料の保存について」

北海道立図書館総務企画部企画支援課主任 西岡 祐子

演習1「簡易な補修」

同 利用サービス部資料課主任 今野 徹

演習2「無線とじ本の修理」

同 利用サービス部利用サービス課主任 大塚 寿信

演習3「糸を使った修理」

同 総務企画部企画支援課主査 伊藤 嘉奈子



本のしくみや保存方法についての知識を得るとともに、補修や製本の基礎的な技術を身に付けることをねらいとする研修を実施しました。

補修については、補修用品についても参考になったとの声が聞かれました。無線とじ本の修理では、本を分解する作業に初めは戸惑いながらも、グループで協力しながら再製本を行いました。また、絵本などに見られる糸とじ製本について、針と糸を使って実習しました。

日頃修理製本に関する実習のニーズは高く、修理をしてでも所蔵資料を長く活用したいという図書館（室）の皆さんの熱意に応えるよう実習時間を多くとりましたが、その一方で、修理の必要性については、資料の利用頻度や保存期間、修理にかかる費用や時間などから合理的に判断することが大切であり「手当てより予防を」として説明し、理解が得られたようでした。

また、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の説明会を合わせて実施し、サービス内容、活用方法や申請等について理解を深めました。（企画支援課）

市町村図書館職員レファレンス体験研修

平成13年度から開始し、受講者数がまもなく200名に達する「レファレンス体験研修（略称「レファ研」）」に、今年度も、旭川市、浦幌町、苫小牧市の三つの市町村の図書館職員が来館しました。

レファ研の特徴の第一は道立図書館で行われる「実地研修」であること、そして第二に「少人数制」であることが挙げられます。レファ研は担当職員と受講者が1対1でひざを突き合わせ、研修室ではなく事務室内で行っています。受講者は1市町村から1人か2人という少人数が基本なので、研修会ではなく「研修」となります。

そして三点目、最大の特徴が研修プログラムを受講生に合わせたオンデマンド研修としているところです。レファ研では、事前にプログラム例から研修内容を選ぶことができるようになっていますが、その図書館の事情（新しいサービスを始めるなど）や、職員のスキルに合わせて内容を調整しながら実施するため、同じプログラムでも同じ内容とはなりません。私たち担当職員にとっても、いかに相手に合わせた有益な研修となるか、腕を試されるところです。

これら三つの特徴以外にも、研修中に不明な点があれば即座にとことん聞き直すことができる点や、事務室内で行われている実際の電話のやり取りを間近で見られる貴重な体験もレファ研ならではの点です。

平成26年度に実施した「市町村図書館職員レファレンス体験研修」から

苫小牧市立中央図書館（2名）7月29日（火）

「文献調査の達人をめざして」と題したカリキュラムを中心に、質問に的確に対応するための書誌、参考図書資料の選び方と使い方を研修しました。レファレンスに取り掛かる前段となる利用者からの“レファレンスインタビュー”が参考になったとのことでした。

浦幌町立図書館（1名）9月9日（火）－10日（水） 2日間

「地域資料」のレファレンスについて重点的に研修を行いたいとの要望により、北方資料室においてパンフレットなどの非書籍資料の活用や自館で対応するためのツールの作成方法、インターネット情報の活用法について研修を行いました。

旭川市中央図書館（1名）12月19日（金）

インターネットによる公開が主流の国の行政情報や統計情報の調べ方、地域資料については北方資料室において調べる際のコツや地域関係のウェブ情報の活用の仕方について研修を行いました。レファレンスに役立つ「とっさの一冊」を記録しておき、さらにこれを増やしていく努力の大切さを学んだとのことでした。

（利用サービス課）

利用者向け講座

■「北海道立図書館書庫ツアー」

利用者の方にとって、図書館といえば閲覧室をイメージすることが多いのではないのでしょうか。しかし、閲覧室は図書館のほんの一部。施設の大部分は「書庫」と呼ばれるバックヤードです。

北海道立図書館では普段は公開していない書庫を案内する「書庫ツアー」を毎年開催しています。平成26年度は5月3日（土・祝）、8月7日（木）に子ども向け、8月3日（日）、11月3日（月・祝）、2月3日（火）に一般向けの計5回のツアーを行いました。

今年度の書庫ツアーは、50年間にわたり栗田書店（現・栗田出版販売）から寄贈されている資料群（栗田文庫）に焦点を当て、実際に参加者がそれらの資料を手にとって閲覧する時間を長くとりながら実施しました。

栗田文庫には、戦後の人々の暮らしを振り返る上で貴重な雑誌や漫画が数多く含まれています。懐かしい資料に触れることで、若い方には新鮮な驚きを、かつてそれらを購読していた年齢の方々には、過去を振り返るノスタルジックなひとときを味わっていただけたのではないのでしょうか。（利用サービス課）



■ 今日から始める健康づくり～メタボが気になりだしたあなたへ～

日時：平成26年10月24日（金）14：00～16：00

会場：北海道立図書館研修室 参加者：10名

図書館は本を読むだけでなく、いろいろな情報を入手できる場所です。この講座では、北海道健康安全局地域保健課から佐藤保健師を講師に迎え、日常生活で健康づくりに取り組むためのいろいろなポイントを学びました。

日々の生活の中で健康を保つための注意点、メタボリック症候群にならないための簡単な運動法、また健康づくりに関する本の探し方などが講義され、図書館の新たな活用法を知っていただく良い機会になったのではないかと思います。この他にも6月21日（土）に「知っていれば便利に使える 図書館活用術」、11月15日（土）に「ネットを使ってビュンビュン行こう！インターネット活用術 特別編」を開催



し、それぞれ好評のうちに終了しています。また、これらの講座は道民カレッジ連携講座として実施しました。
(利用サービス課)

■ 書庫ツアー「北方資料室書庫探見 ～海を越えて…回想の樺太資料～」

日時：平成26年9月20日（土） 13：30～15：30

会場：北海道立図書館研修室 参加者：22名

これまで要望の多かった「樺太」をテーマに、関係資料と書庫を案内しました。ツアーでは、参加者同士が樺太に関する資料を懐かしむ様子や、資料や書庫についてさまざまな質問が飛び交う場面が見られました。



また、ツアー後のアンケートでは、全員が「良かった」と回答し、「貴重な資料が見られて良かった」「説明がわかりやすかった」等の感想が多く聞かれました。

■ 第15回資料で語る北海道の歴史講演会「近世蝦夷地に渡来した捕鯨船 一鎖国から箱館開港へ」

日時：平成26年11月8日（土） 14：00～16：00

会場：北海道立図書館研修室 参加者：51名

北海道史研究協議会の協力により、同会会員で藤女子大学文学部文化総合学科講師の松本あづさ氏を講師に迎え、開催しました。



講演は「鯨」を切り口に、江戸時代の北海道で鯨がどのような役割を果たし、また、産業革命以降、鯨を求めて押し寄せた欧米捕鯨船との関わりの中で、日本と諸外国との関係がどのように変化していったか、当時の史料を丹念に紐解きながらお話しいただきました。

アンケートでは、「配付資料が充実していた」「当時の蝦夷地と外国捕鯨船との関わりが良く理解できた」といった感想が多く聞かれました。また「もう少し質問の時間を取って欲しい」との意見もあり、講演が興味深いものであったことがうかがえました。

■ 利用講座「実践！新聞で調べる ～北方資料活用講座～」

日時：平成27年2月14日（土） 14：00～16：00

会場：北海道立図書館研修室 参加者：18名

今回は、私たちの身近な情報源である新聞を取り上げ、北海道の新聞の歴史や、新聞を使った調べもののツール、実際に寄せられた調査事例を紹介する、北方資料活用のための講座となりました。実施したアンケートは概ね好評で、「新聞の流れが良くまとまっている」「調査方法の詳細がわかった」等の感想が寄せられました。
(北方資料課)

展示を振り返って

【一般資料】

エントランスホール、児童コーナー及び閲覧室（窓辺の本棚）のほか、閲覧室等に特設展示を設け、合計30回実施しました。コーナー別に、実施した主なものを紹介します。

■ エントランスホール

「世界遺産ってなんだろう？」平成26年9月2日（火）～11月27日（木）

昨年6月に、群馬県の富岡製糸場が日本で18件目の世界遺産に登録されました。展示では、世界遺産条約、世界遺産の登録基準をはじめとした世界遺産に関する基礎知識を紹介。

また、世界にある世界遺産に関する資料と、日本にある世界遺産の所在や登録名などを資料と合わせて紹介しました。期間中、世界遺産に関する資料の貸出しが多くありました。

■ 児童コーナー

「恐竜わーど」平成26年11月1日（土）～12月25日（木）

恐竜に関する子ども向けの図鑑や絵本はもちろ
ん、普段は一般資料閲覧室等に置かれている大人向
けの本も集めて紹介しました。会場には、恐竜博物
館などの関連施設のリーフレットやぬりえなど、本
以外の情報も合わせて紹介し、親子で楽しむ姿が多
くみられました。



■ 窓辺の本棚

「管楽器の快樂」平成26年8月1日（金）～8月28日（木）

吹奏楽団が一番練習に熱の入る、旬の時期に合わせて実施した展示です。楽器の演奏方法に
関する資料に始まり、吹奏楽やそれにかかわる人々の歴史、プレイヤーという仕事、吹奏楽を
題材とした小説・漫画など、演奏する側、聴く側両方の楽しみ方を紹介しました。

■ その他

今年度もタイムリーな情報に合わせ、外部機関等と連携しながら、次のような特設展示を
実施しました。（ ）内は、連携先です。

- ・ 環境関連図書コーナー（北海道環境生活部環境推進課）
- ・ 北海道で活躍されている方々による「おすすめの1冊」（北海道教育庁生涯学習課）
- ・ 映画「アオハライド」図書館利用促進タイアップポスター（北海道学校図書館協会／北海道教育庁生涯学習課）
- ・ どさんこアウトメディアプロジェクト～第1・3日曜日はノーゲームデー～（北海道教育
庁生涯学習課）

（利用サービス課）

【北方資料】

北方資料室では計12回の資料展示を行い、北方資料室の書庫にある資料を紹介するとともに、テーマに関連した機関、団体等発行のパンフレットやポスター等を並べるなどの他機関との連携を図りました。また、「北海道・歌の旅～“歴史的音源(れきおん)”を聴きながら～」の展示ではパソコンを置き、国立国会図書館の「歴史的音源」の配信を利用して紹介した曲を実際に聴いてもらいました。

ミニ展示では貸出しができる資料を中心に並べ、北海道に関する資料をより身近に利用できるように図りました。「“ジョバンニの島”をさがして」は本の森厚岸情報館でも、本年1月から2月に移動展として、上映会に併せて開催されました。

■ 北方資料展示コーナー

「豆本 ～小さな扉の向こうの多彩な世界～」	4月26日～6月21日
「北海道の山々をあおぐ」	6月22日～8月15日
「竹鶴政孝と北海道」	8月16日～9月11日
「絵はがきで旅する北海道の温泉」	9月13日～11月27日
「北海道・歌の旅 ～“歴史的音源(れきおん)”を聴きながら～」	11月29日～1月29日
「のぞき見 北海道と絵の世界」	1月31日～4月19日

■ 北方資料室内ミニ展示コーナー

「“ジョバンニの島”をさがして～近くて遠いふるさと、北方領土～」	8月1日～8月31日
「北海道の温泉」	9月12日～11月11日
「豊穰なる大地の宝石～道産ワインを楽しむ秋～」	11月12日～12月12日
「三浦文学を読む～三浦光世氏追悼特集～」	12月16日～1月16日
「北海道愛～LOVE～これが、われらが北海道」	1月12日～2月15日
「あの人も この人も～北海道にまつわる人物エトセトラ～」	2月17日～3月29日



「北海道・歌の旅 ～“歴史的音源(れきおん)”を聴きながら～」



「豆本 ～小さな扉の向こうの多彩な世界～」

(北方資料課)

北海道の図書館から「マッサン」を発信！！

道立・市町村・大学・学校図書館が連携して展示と映画上映を開催

5月 プロローグ ～キーワードは連携～

平成21年度に道立図書館で開催した「竹鶴政孝と北海道展」は、その後、北方資料移動展として10市町村で開催しました。今年度、NHK連続テレビ小説として、竹鶴政孝をモデルとした「マッサン」の放映が決まったのを機に、北海道内の図書館が様々な情報を提供する図書館として連携し、話題の「竹鶴政孝」を発信していこうと改めて企画。道立図書館、市町村立図書館11館、大学図書館1館、学校(高等学校)図書館1館において開催しました。

7月 滝川市立図書館でスタート 講演会には、地元のバーテンダー・放送局のキャスターも

連携のスタートは、市役所2階に移転してから様々な企画や事業で、多くの市民に利用されている滝川市立図書館です。美術自然史館とも協力し、講演会は、アサヒビール(株)ウイスキーアンバサダー蓑輪陽一郎氏の講



演に、地元のバーテンダー、地元FM放送局の方が参加してのトークライブを開催。図書館も森館長以下、手作りの衣裳でバーテンに扮して運営するなど、まさに地域に密着した図書館です。講演会には100名を超える方が参加されました。

秋には、市役所ロビーで上映会を開催しました。

8・9月 道立図書館と江別市情報図書館の初のコラボで

道立図書館と江別市情報図書館の初の連携事業として開催。講演会を道立図書館、映画上映会を江別市情報図書館として、それぞれ資料展示を協力して開催しました。道立図書館での講演会、情報図書館での上映会はいずれも満員御礼となりました。



北海道立図書館



江別市情報図書館

9月 政孝とリタの生き方を伝えたい 北海道帯広三条高等学校図書館

高校では、帯広三条高校の図書館担当の高橋先生の「政孝とリタの生涯を知ってもらいたい」との希望で実現。図書館の生徒たちと協力して高校の図書館での開催となりました。資料展示は、生徒と父兄だけでなく、一般の方にも開放し、テレビニュースで紹介されたこともあり、多くの方が来校されました。高橋先生の「学校図書館の力を伝えることができました」の一言が印象的でした。



12月 地域の力を実感 北翔大学では上映会に240名も



北翔大学では、学外の方を対象とした資料展示は初めての試みとなり、地域交流として近隣大学、自治会等の協力を得て、講演会・上映会は、学生を中心に運営し、239名、資料展示会を含めると370名を超える参加者となりました。

2月 マッサンの展示を見せたい 司書の思いで実現 枝幸町立図書館

「マチの人たちに、マッサンの展示を見せたい」連携企画を知った枝幸町立図書館の司書石塚さんが企画書を作成、図書館、教育委員会に提案して実現。資料展示、上映会には、たくさんの町民の方が訪れました。



3月 最後は連携で 渡島西部4町連携

最後は、3月16日から30日まで、木古内町、福島町での開催です。知内町、松前町を加えた渡島西部4町は図書まつりを中心に様々な連携をしており、今回も4町連携としての開催です。

エピローグ ～キーワードは連携～

その他、和寒町、八雲町、室蘭市、長沼町、音更町、余市町、新十津川町で開催し、9か月で、延べ15館で実施することができました。7月から始まった「竹鶴政孝と北海道展」は図書館だけでなく、文学館、美術館や郷土資料館等幅広い機関とも連携して実施することができ、まさに「キーワードは連携」となりました。

(北方資料課)

平成26年度北海道立図書館協議会

今年度の協議会は、次のとおり開催しました。

- ・ 第1回 平成26年7月17日(木) 北海道立図書館会議室 出席委員 9名
議題1 平成25年度業務実績について
その他
- ・ 第2回 平成26年11月18日(火) 北海道立図書館会議室 出席委員 9名
議題1 会長及び副会長の選出について
2 平成26年度の活動状況について
その他
- ・ 第3回 平成27年3月24日(火) 北海道立図書館会議室
議題1 「平成27年度北海道立図書館運営計画(案)」について
その他

■ 浦田委員の平成26年5月10日付け北海道学校図書館協会会長辞任に伴い、門前委員(札幌市立青葉中学校長)が6月9日付けで就任されました。

■ 今年度は図書館協議会の改選期で、平成26年11月1日から2年間の任期として、各関係団体等の推薦及び公募により10名の委員が就任しました。

公募にあたっては、関係機関の御協力によりHTB地上デジタル放送 データ放送「北海道庁からのお知らせ」(試験運用)や北海道新聞に記事を掲載していただき、多数の御応募がありました。

今回の改選により、7名の委員が新しく就任し、また女性の委員は6名となりました。

■ 協議会に関する情報をホームページに掲載していますので、是非、ご覧ください。

ホームページアドレス : <http://www.library.pref.hokkaido.jp/>

トップページ>道立図書館について>道立図書館協議会

(総務企画部管理課)

地域の情報編集センターとしての新たな図書館をつくる

LENコード・チェンジマジックを活用した図書館支援総合システム

幕別町図書館 主査 民安 園美

なぜ蔵書点検のため8日も休館が続くのか。図書館にはこんなにもたくさんの本があるのに、なぜ本棚を見てもワクワクしないのか。なぜWeb Opac（ウェブオパック）は、その図書館に目的の本が「あるかないか」しか教えてくれず、利用者が手にすることができるまでの道案内をしてくれないのか。

前館長が就任時に抱いた図書館に対する素朴な疑問から始まったシステム改修事業は、図書館全体に大きな変革をもたらすことになりました。図書館外からきた、いわば門外漢の館長だからこそ見えた疑問が、「LENコード（カメレオンコード）」の導入につながり、さらに運用フローなど内側の課題から、地元書店との関係など外側とのつながり、地域との関係まで根本的に見直す契機となりました。



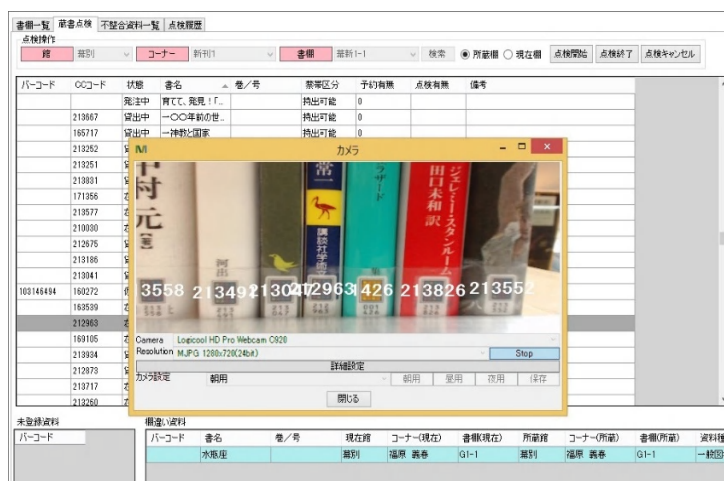
新しく導入したLENコード



書架用のLENコード

導入した新システム「チェンジマジック」は文書管理システムをベースに開発され、書架における棚単位、資料の配架順での管理などの「棚管理」が可能となりました。資料を一括で認識し効率よく管理するために採用したのが、低コストで導入可能な二次元カラーコード「LENコード」です。従来の表紙や裏表紙に貼っていたバーコードが、背表紙に貼ることができるLENコードに代わることで、一冊ずつ取り出してバーコードをなぞる方法から、背表紙をカメラで一括認識する方法へ。資料を一括認識できることによって、蔵書点検を配架などの日常業務のなかで行うことが可能となり、蔵書点検による閉館期間の撤廃と業務の負担の軽減が飛躍的に図られます。また、資料の背表紙に貼付したLENコードは、書架の棚毎に貼付したLENコードに紐づけられていて、その資料が書架のどの列のどの段の、左から何番目にあるのかということまで管理でき、システム自体が配架場所を覚えているので、誰でもあるべき場所

に戻せるという利点があります。もちろん蔵書検索結果から配架場所をピンポイントで案内することも可能になりました。



蔵書点検画面。棚のLENコードを読み取ると、チェンジマジックがそこにあるべき資料の一覧を表示する。

カメラで資料のLENコードを読み取ると読み取った資料がチェックされ、間違っ配架された資料は、「棚違い資料」として別枠に表示される。

棚違い資料の一覧には、あるべき棚が表示されているので、その場ですぐ戻すことができる。

この棚管理により「本の文脈」で資料を自由に並べることができるようになりました。例えば、当館の「北の本箱」（著名人からの寄贈本コーナー）の福原義春さんの本棚では、“資生堂”から連想した“花椿の赤”というキーワードから赤い表紙の本だけを並べたり、“広告”というキーワードから写真やデザイン、言葉に関する本を並べたりするなど、NDC（日本十進分類法）にとらわれない、その本の意味や背景、つまりその本が持つ「知」をさまざまな角度からみて、本と本とをつなげていく「文脈棚」の編集が可能になりました。この仕組みによって、地域の特性や図書館の蔵書に合わせた独自の書架構成の工夫ができ、さらに、コンテンツの充実を目指したホームページ上の「バーチャル本棚」に展開することで、新たなかたちの“本との出会い”を提供しています。

また、LENコードの導入は、地元書店との関わり方にも大きな変化をもたらしました。図書館がクリアできなかった装備の問題を、書店が地元の福祉事業所をコーディネートすることで、書店と福祉事業所とが一緒に図書館づくりに積極的に関わるようになりました。この図書館と社会インフラの新しい関係づくりは、「知の地域づくり」（文字・活字文化推進機構が提唱）の実践例として注目されることになりました。

今回の一連の改革は、システム改修事業として始まりましたが、「本棚の力」「ネットの力」「人材の力」を生かした「地域の情報編集センター」というコンセプトを軸に、図書館の在り方全体を見直し、ツールの一つとしてLENコードを導入したことによって、利用者サービスの充実はもちろんのこと、関わりのなかった住民にも興味を持ってもらうことへもつながり、これまで以上に地域との関わりが深まっています。

アーニス分館はじめました。登別市立図書館

登別市立図書館長 綿貫 亨

平成26年8月1日、登別市立図書館のアーニス分館が開館しました。この分館は、市の地域情報センターが「情報通信技術の普及」という当初の目的を遂げたことから、既存のインターネット環境や視聴覚機器を活用し、高齢者や障がい者の利便性に配慮したバリアフリー機能をもつ図書館分館に改装したものです。



登別市立図書館は、昭和47年の開館から42年が経ちます。今日では施設が手狭になってしまい、雑誌の要望などに応えられない状況でした。何よりもバリアフリーに対応していないことは早急に手を付ける必要がありました。しかし多くの課題をすべて解消するには分館の広さが限られており、あれもこれもと欲張らず、目的を絞った施設にすることになりました。

広さは260㎡です。そこで「小さなスペースでも多くの情報を入手できる図書館」という目的に集約させました。

8台のパソコンと2つのAVブース、約7,500冊の蔵書、36種の雑誌、約40種の逐次刊行物、それに小さな閲覧室があります。公衆無線LANや拡大読書器も用意しました。

分館では、雑誌の拡充、バリアフリー対応、隣接するジョブガイドと連携した就労支援、祝日と夜8時までの開館などのサービスを実施することで本館を補完します。蔵書は、実用書や大活字本を中心にして、本館との差別化を図りました。

このアーニス分館の最大の特徴は、商業施設の中にあることです。その名のとおり、登別中央ショッピングセンター「アーニス」の2階に入っています。

ショッピングセンター側からも、図書館を集客のてこにしたいと様々な提案をいただいています。「ここに来るお客さまは買い物や食事に来るので、図書館目的で来る人はまだほとんどいません。この人たちをいかにして図書館に足を運ばせるか、それを一緒にやっていきましょう」と言われています。



図書館を利用しない方をいかに取り込むか、この「新たな利用者の掘り起こし」という課題には、はからずもプロの商売人の視点でアドバイスしてもらい、試す場となっています。「告知にはポスターによる視覚効果だけではなく、耳にも訴える放送が有効だよ」と指摘され、「図書館に週刊誌が入りました」といった館内放送をこまめに流してもらっています。

「卵の特売に合わせて、卵を使った料理の本を展示しては？特売チラシのゲラを前もって提供するから」など、スーパーのセールと連動したアイデアもいただいています。畑違いの住宅関連フリーペーパーに、毎月アーニス分館の広告も載せてもらっています。ショッピングセンターとは「商業施設の中にあるからこそ、新しいことを思い切ってやりましょう」という話をいつも交わしています。

分館開館後の貸出数は以前の2倍に伸びましたが、貸出数より「顧客満足度」を上げることに留意しています。利用者からは、休館日を変えてほしいなどの要望も寄せられています。

今後の取り組みとしては、新年度から、国会図書館デジタル化資料送信サービスやジャパンナレッジ・道新データベースなどの提供を始めます。

吉村昭に「喫煙コーナー」というスーパーを舞台にした短編小説があります。初老の男たち「一人ひとりの居場所」と出会い。そんな場にしたい。そしてこの小さな分館から図書館という広い世界に誘いたい、と願っています。

平成27年度 事業計画

月	上 旬	中 旬	下 旬
4			子ども読書の日(23日) こどもの読書週間(4/23~5/12) 北図振 第1回理事会・総会 (23日 札幌市)
5	書庫ツアー(子ども向け 3日)	北学図 定期総会(9日 札幌市)	北読進協 総会(札幌市)
6	北図振 全道図書館新任職員研修会(4~5日 当館) 道民カレッジ連携講座(6日)	書庫ツアー(15日)	北図振 北日本図書館大会兼北海道図書館大会(25~26日 札幌市)
7	北図振 全道図書館中堅職員研修会(9~10日 当館・札幌市)	第1回北海道立図書館協議会	道民カレッジ連携講座
8	書庫ツアー		
9	北学図 北海道学校図書館研究大会(4~5日 室蘭市)	道民カレッジ連携講座(12日)	
10		日図協 全国図書館大会 (15~16日 東京都) 道民カレッジ連携講座	読書週間(10/27~11/9) 文字・活字文化の日(27日) 北読進協 優良読書グループ表彰 北図振 第2回理事会全道図書館長会議(29日 札幌市)
11	書庫ツアー(3日) 日図協 全国公共図書館研究集会 児童・青少年部門 (5~6日 岐阜県)	道民カレッジ連携講座 第2回北海道立図書館協議会 図書館地区別(北日本)研修 (4日間 札幌市)	日図協 全国公共図書館研究集会 総合・経営・サービス部門 (25~26日 愛媛県)
12	北図振 専門研修(サービス/地域資料)(3日 釧路市) 北学図 青少年読書感想文全道コンクール及び北海道指定図書館読書感想文コンクール (6日 札幌市)		
1	北学図 北海道学校図書館研修講座 (5~7日 札幌市)	北図振 専門研修(子ども読書/学校支援)(13日 恵庭市)	
2	書庫ツアー(3日)	道民カレッジ連携講座	道民カレッジ連携講座
3		第3回北海道立図書館協議会	

※ 上記の日程は変更になる場合があります。

<凡例>

- ・北図振・・・北海道図書館振興協議会
- ・北日図連・・・北日本図書館連盟
- ・北読進協・・・北海道読書推進運動協議会
- ・北学図・・・北海道学校図書館協会
- ・日図協・・・日本図書館協会
- ・全公図・・・全国公共図書館協議会

**平成26年度
全国優良読書グループ表彰・優良読書グループ北海道表彰
北海道読書推進運動協議会**

(公社)読書推進運動協議会では、「読書週間」事業のひとつとして、全国優良読書グループ表彰を実施しています。北海道読書推進運動協議会においては、全国表彰への推薦と合わせて、独自に北海道表彰を行っており、次の皆様が受賞されました。

全国表彰（1団体）

- 読み聞かせの会「おはなしくしんぼ」 新ひだか町 昭和49年設立

北海道表彰（5団体）

- 読み聞かせボランティアサークル「ひなたBOOK★(ぼっこ)」 夕張市 平成19年設立
- 石狩市民図書館ボランティアサークル「布の絵本にじ」 石狩市 平成12年設立
- 学校図書館ボランティア「大川小ブックママ」 余市町 平成17年設立
- 「らっこ座」 広尾町 平成4年設立
- 「よむよむママさん隊」 標津町 平成12年設立

北海道表彰・北海道地域活動振興協会理事長賞（3団体）

- 「点字ろくの会」 江別市 昭和58年設立
- 朗読ボランティアグループ「まちの灯」 江別市 昭和58年設立
- 苫小牧読み聞かせ文庫活動連絡会 苫小牧市 平成5年設立

(企画支援課)



2014・第68回読書週間ポスターと標語ロゴマーク
(公益社団法人読書推進運動協議会)

掲 示 板

〈北海道立図書館システム更新〉

3月9日に新システムが稼働しました。北方資料デジタル・ライブラリーの機能追加やアクセシビリティに配慮したホームページを構築しました。是非、ご覧ください。次号で詳しくご紹介します。※対応ブラウザは、Internet Explorer 9以上を推奨します。

〈道立学校図書館支援貸出について〉

子どもの読書活動推進の一環として、当館の本や雑誌を、学校図書館で積極的に利用してもらうために、試行として「道立学校図書館支援貸出し」に取り組みました。

全校で行う芸術鑑賞に合わせての資料展示、海外研修に向けての事前学習等、延べ8校に323冊を貸し出しました。次年度は、利用規則を改正し、図書館間貸出しの対象館に「学校図書館」を加え、さらなる利用を推進します。



資料展示（北海道札幌手稲高等学校）



海外研修に向けての事前学習（北海道立ノ国高等学校）

〈公益財団法人北海道青少年育成協会から図書の寄贈〉

公益財団法人北海道青少年育成協会から「北海道青少年のための200冊」等、児童書を中心とした356冊の本を寄贈していただきました。同協会は、優良図書の普及を図るため「北海道青少年のための200冊」の選定推奨を実施している団体です。今後は、学校ブックフェスティバル事業等、広く道内の図書館（室）、学校図書館の支援に活用していきます。

北海道立図書館報 第198号

平成27年 3月 19日 発行

北海道立図書館長 坂本和彦

〒069-0834 江別市文京台東町4-1番地

TEL : 011-386-8521 (代表)

ダイヤルイン 386-8531 (総務企画部)

386-8522 (利用サービス部)

386-8523 (北方資料室)

FAX : 011-386-6906

E-mail : support@library.pref.hokkaido.jp

ホームページ : <http://www.library.pref.hokkaido.jp>